

(調査様式1)

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25年 6月 28日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4694300015号
法人名	(株) スローライフ
事業所名	グループホーム 絆
所在地	鹿児島県南九州市川辺町高田1238-4 (電話) 0993-58-3838
自己評価作成日	平成25年6月7日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

高齢者にとって、「食」の楽しみを第一にしたいと思い、施設での食事、また、外食に出かけたりと、楽しみごとのある施設運営を、心がけてきましたが、施設の認知症の方の帰宅願望が強いとき、「家に帰りたい」＝「あの日の自分に戻りたい」との思いは消えることのない大事な思いであることをつくづく感じます。少しでもその強い思いをわかってあげられる施設であることを目標に、努力を重ねて行きたいと思っております

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成25年6月24日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

旧川辺町の郊外、田畑や小川などの自然環境に恵まれた地に立地しているグループホームである。ホーム周辺は桜の花見や森林浴も楽しめ、癒しの空間となっている。利用者の残存能力を活かして自立を妨げることのない支援に取り組み、家事や畑仕事、外出など安全で自由なその人らしい生活が送れるように利用者主体のケアが行われている。又、離れて生活していても家族との絆が途切れることのないように家族としっかりと話し合って介護計画を作成し、家族が担当となるサービス内容も盛り込んでいる。

生活の中での楽しみごとがより多くなるように、職員体制を充実させて様々な趣向を凝らしており、瀕回な外出の機会やホーム内でのカラオケやレクレーションの充実、時にはディサービスに出かけた気分を味わえるようにホーム所有の旧家を補助施設として活用し、そば作りやソーメン流しなども楽しんでいる。

又、日々の生活記録を作成して毎月ホーム便りと共に家族に送り「絆での生活に安心しています」との家族の声を頂けるなど信頼関係が築かれている。

利用者の表情も明るく、ホーム内に活気が感じられるグループホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	利用者の人間としての尊厳を理念に掲げ毎朝の申し送りのとき職員全員で唱和することにより確認し、再認識して実践ケアを行っている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を職員全員の意見を集約して作成している。理念は毎朝唱和し、定例会議時に振り返る機会を設けるなどして理念の共有と実践に繋げている。理念は玄関、リビングに掲示し、パンフレットにも明記されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入、地域との花見会、高田文化祭、敬老会等への参加など交流を続けている。	自治会に加入し、代表者が総会に出席するなどして地域交流に努めている。利用者も地域行事参加で交流の機会も多く、校区の文化祭には作品も出品している。また、小学生の体験学習の受け入れや学習発表会・運動会見学にも出かけるなど子ども達との交流もある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域の小学校からの授業での訪問を受け入れた中で体験学習を行っている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を活かし話し合いによりアドバイスを頂いて、参考にして、運営に活かしている。	自治会長・ボランティア・近隣施設の職員・家族・行政等の参加で2ヶ月に1回定期的に開催している。ホームの状況報告・家族向けアンケートの結果報告・ホームの取り組みについてなどを報告し、安全対策や地域の高齢者事情などを話し合う機会ともなっている。又、家族には交代で参加してもらえるように積極的に参加を促している。	

鹿児島県 グループホーム絆

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に、毎回ご出席いただき取り組みを報告、必要ときは電話等で連絡相談を行っている。	日頃より市担当者と連携を図り、協力関係を築いて事業所運営やサービス向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修を毎年行い全員で理解を深めている。また、原則として日中は玄関を施錠していない。	日常の業務の中で問題点があれば職員間で都度検討して拘束のないケアの実践に取り組んでいる。また、事例集を作成して勉強会を行い、毎月の定例会議時に話し合う機会も設けている。日中は玄関や居室の窓などは施錠はせずに職員の見守りと連携で安全で自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関する研修を定例会の中で行い、虐待について見過ごされることが絶対にならないよう、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての研修を行い、全員で学んでいる。個々に必要性があるときに活用できるよう支援する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の締結、解約、改定の際は、ご納得いただけるよう説明を行い、すべての事項を読み合わせながら行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族にアンケート調査を行い、その意見を元に、運営に反映させるよう努力している。又、面会等のとき、意見を伺っている。利用者の思いを汲んで反映させることもある。</p>	<p>重要事項説明書にホームの窓口と第三者委員も明記している。年1回の家族との食事会時や日常の面会時及び電話連絡時に意見・要望等を聞き出すように努め、利用者の状況報告も行い、家族とのコミュニケーションを図っている。また、サービス向上のための無記名式アンケートを実施し、出された意見・要望について職員全員で話し合い、結果と改善点についても家族に報告している。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月一回の定例会だけでは、職員の意見をじっくり聞けないと判断し、年3回の業務改善会議を開催し、全員で、話し合いをして取り組んでいる。</p>	<p>毎朝夕の申し送り時や毎月の定例会議時、全員参加の業務改善会議時に職員の意見・提案を話し合う機会としている。出された意見・提案は可能な限り運営に反映させられるようにしている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>個々の職員の状況を踏まえ、全員が働きやすく向上心をもって働けるよう環境を整えるよう努めている。</p>		

鹿児島県 グループホーム絆

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	それぞれの職員が、施設内外の研修に出る機会を確保できるよう努めている。		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	地域のグループホーム協議会に加入し、相互訪問を行い、勉強会や交流を年数回実施してお互いのサービス向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には必ず自宅を訪問、生活状況を把握した上で、本人の希望を聴き、安心できるよう関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人に関する細かい部分まで、聞き取りを行い信頼関係作りに努めている。特に初期は連絡を密に情報のもれがないよう留意している。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望から必要であると思われる支援を見極め、希望に沿ったケアができるよう対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	24時間の生活を共にしており、洗濯、料理を作る、畑仕事掃除、シーツ交換、ボタン付けなどすべての行為を助け合って生活している。		

鹿児島県 グループホーム絆

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の毎日の様子を絆便りにてお知らせする、また、家族への連絡を蜜にすることにより、家族の絆を大切にできるよう関係を、支えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のアセスメントを元に馴染みの関係が継続できるよう、支援に努めている。	地元出身の利用者もおおり、地域の敬老会や地域行事見学に出かけて馴染みの人や場との関係が途切れないように支援している。また、友人知人の訪問も多く、訪ねやすいように配慮している。個々に希望に応じてお墓参り・美容室送迎・お見舞い・姉妹宅訪問なども行って関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者の性格を理解して孤立することのないようにまた、助け合えるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了しても相談に応じることを説明しており、入院されても、相談、支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	あらゆる機会、(畑仕事、洗濯物干し、茶碗洗い等)に本人の意向を汲み取り、大事なことはケース記録に記入して職員間で共有している。	口頭で思いや意向を表してくれる利用者が多く、日常の会話や一对一のときに本音を聞けることも多いためあらゆる機会に把握するように努めている。困難な場合は表情や言動、家族や関係者からの情報で本人本位に検討している。得られた情報は個人記録で職員間の情報の共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所後、一ヶ月くらいは本人把握の重要な時期と捉え、アセスメントの確認と同時に本人の情報を職員間で共有できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	どんな生活をしたいのか、できるだけ希望に沿い、残存能力を無くさないようなケアプラン作成に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成にあたっては関係者で話し合い立案し、3か月ごとのモニタリングを行い、現状に即したケアができるよう努めている。	本人・家族の意向や希望を聞き取り、関係者の意見を反映させた個別の介護計画を作成している。地域交流や家族との絆を途切れさせない家族支援の内容も盛り込まれ、個々に応じてサービス内容が詳しく明記された個別性のある介護計画である。3か月ごとにモニタリングを実施し、心身の状況変化に応じて見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	



鹿児島県 グループホーム絆

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の情報を職員間で共有し、ケアプランの作成、ケアの現場に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族からのニーズに対し対応できるかを真摯に考え、できる限り柔軟な支援ができるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流を通して、情報交換を行い、その人らしく生活できるよう支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者及びご家族の希望を元に適切な医療が受けられるよう支援すると同時にできるだけ家族にも同行して頂いている。	入居前からの主治医を継続しており、受診には職員が同行して医師からの指示や助言を直接受けている。また、家族が連れていく際には電話にて直接受診先との情報の共有を図るなどかかりつけ医と事業所の関係を築いている。	

鹿児島県 グループホーム絆

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>施設に看護職員が常勤しており日常の健康管理、医療的な相談をして指示を仰いで支援を行っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>利用者の入院中は定期的に本人と面会し、病状の把握を行う。また、病院からの説明には家族と共にできるだけ立会い情報を共有している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に重要事項説明書の説明時に口頭で、重度化した場合の意思表示に関する同意書についての説明を行っている。</p>	<p>重度化及び看取りに関するホームの方針は指針を作成して入居時に説明し、本人・家族の意向も聞いている。入居後は身体状況に応じて主医師の判断のもと、家族と方向性を話し合いホームで出来る最大限の支援に取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的に事故発生時、急変時対応の研修、訓練を行っている。</p>		

鹿児島県 グループホーム絆

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所の災害時マニュアルを、絆の状況に即して今年作成しなおして職員に確認してもらい研修を行った。また、地域の方2名にお願いして、緊急連絡網にはいってもらっている。	年2回消防署立ち会いのもと、昼夜間想定で避難訓練を実施している。地区消防分団と近隣の地域住民との協力体制も築かれ、緊急連絡網にも登録されている。スプリンクラー、自動通報システムも設置済みで備蓄（カセットコンロ・水・食料等）も確保されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全員が定例会時、事例検討による学習機会において、自分を振り返って、理解を深めている。	定例会時に勉強会を設けたり、日常の業務の中でも職員個々に振りかえる機会を作り、資質向上に努めている。理念のひとつに「尊厳を大切にします」とあり、利用者の尊厳とプライバシーに配慮した言葉かけや対応に努めている。また、家族アンケートからも個々の人格を尊重した対応をしていることが伺われる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望が出せる環境作り、また、自己決定するよう手助けしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の思い、その人らしさを重要と捉え、自分のペースで暮らせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	外出時は着て行く服を選んだり、衣服の買い物に付き添ったりと、支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事を食べる楽しみを味わえるよう旬の味、季節感のある食卓をみんなで囲めるよう全員で取り組んでいる。	「食」の楽しみが第一と自己アピールにもあるように食材をふんだんに使った食事は栄養バランスも良く、中庭の家庭菜園で採れた野菜も食材に加えて季節を感じながら「食」を楽しめるように支援している。時には気分を変えて、外でお茶や食事をしたり、外出に出かけることもある。また、補助施設里庵でのそば作りやソーメン流し、職員の子どもたちとクッキー作りを楽しむこともある。	

鹿児島県 グループホーム絆

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を記録しているが、無理強いしないで確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの状態に応じた口腔ケアの習慣づけを支援している。また、夜間は入れ歯洗浄剤につけ、衛生面に配慮している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を記入し、利用者の状態に合わせた支援を行っている。職員のケアにより紙おむつからパンツに回復した例もある。	排せつチェック表を作成して個々の排せつパターンの把握に努め、身体状況に問題がない限り、トイレでの排せつや排せつの自立に向けた支援を行っている。現在、自立している利用者も多く、維持できるように支援している。職員の声かけや誘導により入居後に改善された利用者も多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の記録をつけ、水分補給に気をつけ、それでも飲まない方の対策、予防に取り組んでいる。		

鹿児島県 グループホーム絆

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日は設定してあるが、いつでも入浴できるよう環境を整えて支援している。	基本は週3回としているが、利用者の希望や身体状況に応じて臨機応変に対応している。自立している利用者もおり、職員の見守りと声かけで安全で安心して入浴できるように支援している。時には、足湯に出かけたり季節を感じられるようにゆず湯を楽しむこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が安心して休息、安眠できる環境作りに心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の一覧表により利用者が飲んでいる薬を理解したうえで服薬の支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれが役割を持って生活し、好きなことができるよう、また、生活が楽しめるよう支援をしている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設内だけの生活にならないよう、毎日の散歩、買い物、外食、補助施設里庵への外出など可能な限りの支援をしている。	日常的にはホーム周辺の散歩、買い物同行、菜園の畑仕事、補助施設里庵への外出などできるだけホームに閉じこもらない生活を支援している。また、月1回程度は遠方への外出の機会を作り、初詣、地域行事見学、外食、くだもの狩り、季節の花見、動物園などにも出かけている。	

鹿児島県 グループホーム絆

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご家族の了解を頂いて、買い物、外出時の支払いを本人にお任せしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>遠方の親戚家族との手紙のやりとり、電話をかけるなど、支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>施設内の環境保全に努め、心地よい空間であるよう、常に、心がけている</p>	<p>玄関を入ると木のぬくもりが随所に感じられる明るく広い共用空間である。食事のダイニングとソファが置かれたリビングに分かれておりメリハリのある生活を送ることができ、リビングからウッドデッキに直接出ることが出来るので開放感がある。台所もオープンで食事の準備の光景やにおいては生活感を与えてくれる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファ、テーブルの配置にはいつも頭を悩ませ、ひとりひとりの居場所が心地よいものであるように工夫している。</p>		

鹿児島県 グループホーム絆

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ベッド、タンスは備え付けてあるが、馴染みの品を持ってきて頂いている。</p>	<p>居室は畳部分があり、落ち着いた造りとなっており、お気に入りの飾り物、家族の写真などそれぞれに居心地良く過ごせるように配慮されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>これでよいととどまることはなく、安心、安全に常に気を配り、常に工夫を続けている。</p>	/	/



V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島県 グループホーム絆

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 グループホーム絆

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない